横浜市立奈良中学校　学校だより

ならの木

２月号

令和６年２月 29 日

学校長　　山根　淳

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nara/

地域防災拠点訓練に参加して

副校長　小島　央亘

２月１０日（土）の午前中、奈良中学校で地域防災拠点訓練が行われました。コロナ禍のため訓練が実施できない年もありましたが、今年度は、防災拠点運営委員のみの参加でしたが、区役所と拠点をつなぐ防災無線やアマチュア無線での情報受伝達訓練、４年ぶりにガスかまどを使った炊き出し訓練、そして『災害用ハマッコトイレ』の組立訓練などを行いました。

『災害用ハマッコトイレ』は、横浜市が地域防災拠点に整備を進めている仮設トイレの通称で、正式には『災害時 下水直結式 仮設トイレ』といいます。耐震性の高い下水管を地中に埋設し、汚水をそのまま下水道に流すことができるため、汲み取り式の仮設トイレよりも衛生的な環境を保てるのが特長です。

生徒のみなさんが毎日見ている奈良中のグラウンドにも、実はマンホールが埋設されています。(防球ネットの手前に看板が出ているので、見たことがある人もいるのではないでしょうか。)　今回の訓練では、地中に埋まっているマンホールをスコップで掘り出し、その上に仮設トイレを組み立て、プールの水をポンプで送水する訓練を行いました。トイレはなかなか我慢ができないので、災害時には一刻も早くトイレ環境を整備することが重要になります。能登半島地震が発生したばかりだったこともあり、参加者のみなさんは、避難生活を具体的に想像しながら真剣な面持ちで訓練に参加されていました。

地域防災拠点は、家屋倒壊等により自宅で生活できない場合に避難生活をする場所です。自宅が無事だった場合は、原則として自宅で生活（在宅避難）することになります。我が家ではキャンプをするので、キャンプ道具＝防災備品はある程度揃っているのですが、トイレに関してはキャンプ場の整備されたトイレを使っているので、自宅でも災害時のトイレ対策は不可欠だと思いました。台風や大雪は事前に予測して対策することができますが、地震は事前に予測することが困難です。今回の訓練に参加して、日頃からの備えと定期的な訓練がいかに大切かということを痛感しました。みなさまも、災害等に備えてご自宅で備蓄や安全対策をされていると思いますが、ぜひ定期的な見直しもされてみてはいかがでしょうか。

奈良中学校評価アンケート結果について

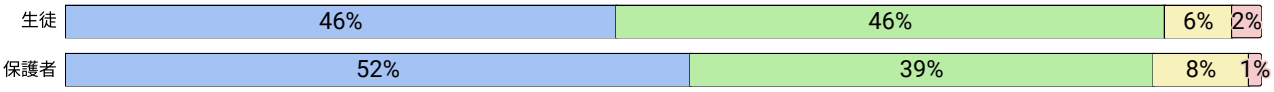
令和５年度学校評価アンケートについて、結果をお知らせします。

帯グラフについては、左から

①あてはまる	②どちらかというとあてはまる	③どちらかというとあてはまらない	④あてはまらない

の全回答に対する割合を表しています。

① 学校に行くことが楽しく、「奈良中生でよかった。」と思えている。

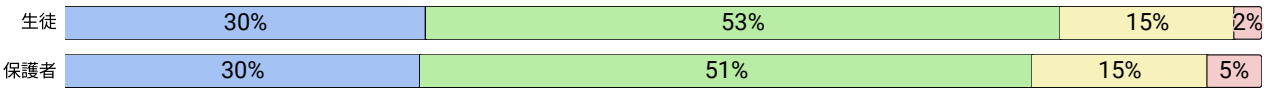


生徒の肯定的な回答が92%です。「そう思う」の割合が一番高くなるように、否定的な回答が5%未満になるようにしていきたいです。教育相談を含め、日常の生活の中で生徒の不満に感じているところに傾聴し、解決に向けて一緒に考えていけるように努めていきます。

② 自分で考え、志や目標、やりたいことをもつようにしている。【夢】

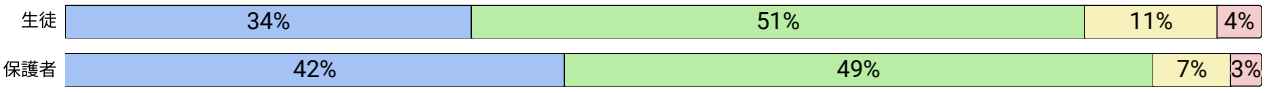
生徒の肯定的な回答が88%です。様々な活動において、目標をしっかりもって取り組んでいくことが成長につながります。学年の進行に合わせて自分を見つめ、将来に向けて目標だてができるよう指導、支援していきます。

③ 物事の実現に向けて、失敗を恐れず、挑戦している。【挑戦】



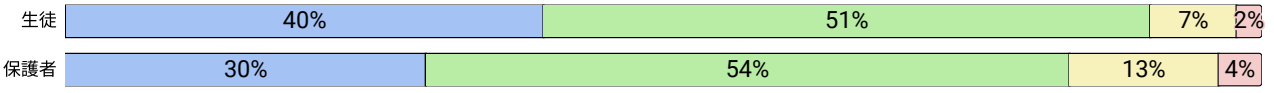
生徒の肯定的な回答が83%です。失敗をして振り返りをして次に生かすというプロセスで人間的な成長があります。「失敗しないように･･･」という視点でやりたいことを簡単にあきらめてしまわないように支援していきます。

④ 他者を尊重し、思いやりの気持ちをもって生活している。【共生】



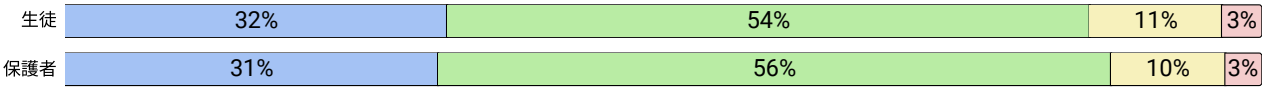
生徒の否定的な回答が15%あります。道徳教育、YPの実践等で相手の心情に寄り添う気持ちを高め、いじめや不登校を生まない温かい学級作りに取り組んでいきます。

⑤ 思いや考えを伝え合いながら、他者とのかかわりを深めようとしている。【小中共通項目】



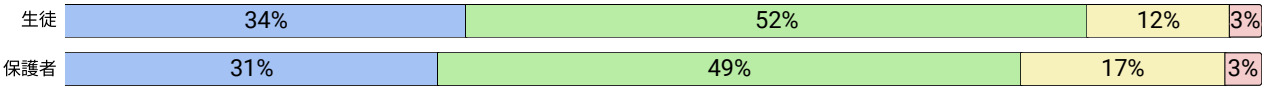
生徒の肯定的な回答が91%です。変化の激しい今の時代をよりよく生きていくためには様々な人と意思疎通していくことが大切です。すべての教育活動において自分の考えや思いを伝え、そして相手の考えや思いを受け取ることのできる場面や状況を模索していきます。

⑥ 相手の立場や気持ちを考え、思いやりをもって過ごしている。【小中共通項目】



生徒の否定的な回答が14%あります。道徳教育、YPの実践等で相手の心情に寄り添う気持ちを高め、いじめや不登校を生まない温かい学級作りに取り組んでいきます。

⑦ 集団や社会の一員として自分を生かそうとしている。

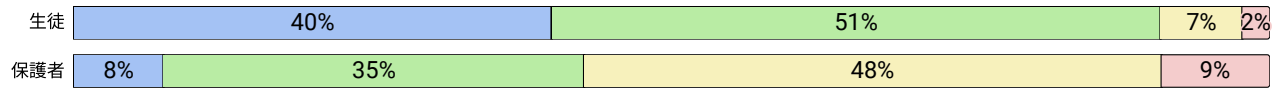


道徳、総合、特別活動において集団、社会の一員としての自覚と関わりについて考えたり、気づかせたりする中で、キャリアを含め自分の個性、得意なことを生かせる機会を増やし、その心情を育てていきます。

⑧ 学校での活動を通してコミュニケーション力が高まった。

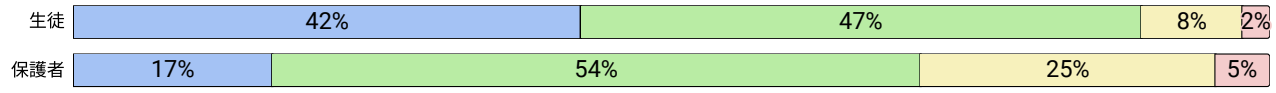
コロナ禍があけ、今年度活動の範囲が校内から校外、地域へ広がっています。子供たちがコミュニケーション力の向上を実感できるよう支援していきます。

⑨ 学校は、小学校と連携した活動や学習機会が多い。



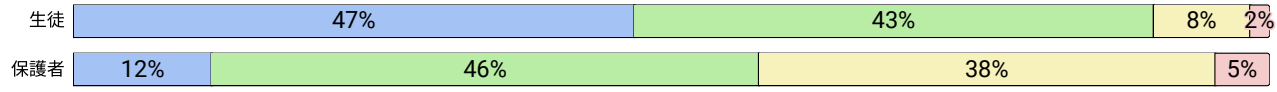
５月、８月に小学校の先生が中学校の授業を参観する機会がありました。吹奏楽部が６月、１１月、２月に３小学校を訪問し演奏を行いました、１２月には地域団体も含め、小中の文化交流を行いました。１月には、小学校６年生による中学校の授業参観、部活動体験、２月には生徒会役員が小学校を訪問し、中学校生活や行事について説明会を聞きます。

⑩ 学校は、授業のめあてや見通しのもてる「わかる授業」を展開している。



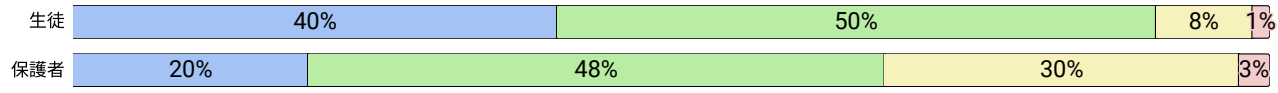
生徒と保護者の回答に大きなずれがあります。普段の授業の様子をもっと見ていただく機会を増やしていきます。

⑪ 学校は、ICTを活用したわかりやすい、楽しい授業が多い。



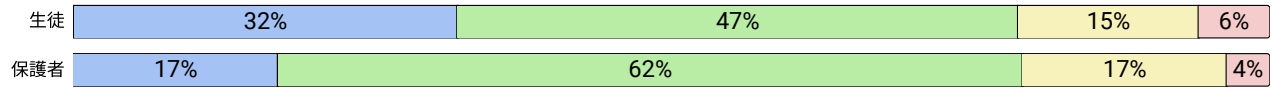
生徒と保護者の回答に大きなずれがあります。今後クロムブックを活用した授業研究も進めていくことになるので、授業を見ていただく機会を増やしていきます。

⑫ 学校は、グループワークなど対話的な授業が多い。



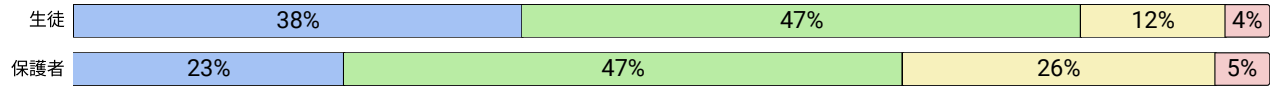
生徒と保護者の回答に大きなずれがあります。今後、主体的で対話的な授業展開について進めていくことになるので、授業を見ていただく機会を増やしていきます。

⑬ 学校は、社会のルールやきまりについての意識づけや学習機会が多い。



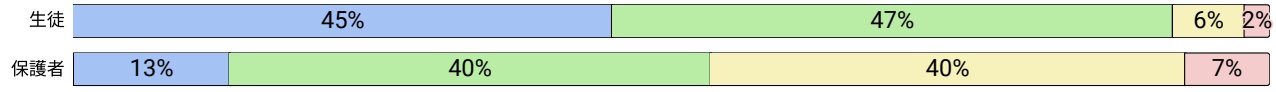
学習場面において、なぜ？どうして？ということを考えさせたり、話し合わせたりする場面を多くし、内面からの気付きを大切にしていきます。

⑭ 学校は、教育相談等を通して悩みや困りごとを相談しやすい。



今後も生徒からの小さな発言をキャッチし、受容と共感の姿勢に基づいた生徒理解を進めていきます。

⑮ 学校は、個に応じた進路選択ができるような職業や進路についての学習機会が多い。



３年間を見据えて、単に「進路＝高校進学」ではなく、職業調べ、職業インタビュー、職業講話、職業観の醸成、職業体験、義務教育後の進路というキャリア教育の一貫した流れをブラッシュアップしていきます。

⑯ 学校は、個の適性や能力に応じた教育活動が展開されている。

保護者	12%	37%	42%	9%

「個の適性や能力に応じた教育活動」とは一人ひとりを大切にする教育のことです。個のニーズに応じた教育を組織的に進めます。

⑰ 学校は、学校生活の中で運動や健康、安全に関する意識づけや学習機会が多い。

保護者	23%	59%	16%	3%

避難訓練、健康教育、交通安全等「いのちを大切にする」効果的な学習活動を模索していきます。

⑱ 学校は、地域と連携した教育活動が展開される機会が多い。

保護者	13%	47%	37%	4%

学校地域コーディネーターが地域人材を募って漢字検定や人命救助の講習を行っていただいています。夏休みの学習会や中３の私立の面接練習に地域の方が協力してくれていたりしています。また、今年度は奈良ふれあいフェスティバルを開催したり、３年生が地域清掃に出たりする予定です。

⑲ 学校は、学校だよりや学年だより等で教育方針や教育活動がわかりやすく発信されている。

保護者	31%	58%	8%	4%

来年度は「マチコミ」に代わり「すぐーる」という連絡システムが導入される予定です。新たなツールも有効に活用したいと考えています。

⑳ 学校は、関係機関と連携し、特別支援教育に取り組んでいる。

保護者	19%	53%	25%	3%

横浜教育支援センター、教育委員会事務局、区役所、児童相談所等と連携し、個のニーズに応じた教育を組織的に進めます。

～令和５年度　第４回　奈良中学校区学校運営協議会が行われました～

２月１６日（金）に奈良小学校にて第４回学校運営協議会が行われました。

はじめに奈良小学校の授業参観を行い、その後、各校から学校評価アンケートの結果についての考察やそれに関連した各校の取組等の説明がありました。

意見交換では、委員の皆様より、奈良中ブロックのテーマである「ひと・もの・こととのかかわりを通して、豊かなコミュニケーションができる子ども」の視点から、感想やご意見をいただきました。

「先生がすべてを話さず、子どもが子どもにアウトプットをしていた。意見を出すと受けとめてくれるというのが伝わってきた。先生と子ども、子ども同士で対話しながらの授業がよかった。」「相手がどう思うかということについては、各家庭でも小さい時から培うことが大切。」「９年間で子どもを育てるということが実感として生きている。子ども達が元気いっぱいに成長できるようにしてほしい。」

いただいたご意見を受け止め、奈良中ブロックでは「学校として何ができるか。」「地域や家庭が学校とどのように連携していくべきか」を改めて検討してまいります。